

飛鳥資料館 春期特別展 「骨ものがたり—環境考古学研究室のお仕事」

発掘調査では、獣や魚、鳥等色々な動物の骨が出土することがあります。これらをよく観察してみると、細かい傷や変形した部分等がみつかります。

どうしてこのような痕跡が骨に残っているのでしょうか？その謎を紐解いていくと、人々と動物たちの生き生きとした姿がよみがえります。遺跡から出土する骨は、動物と人の関わり方や、かつての人々の暮らしを知る上で重要な資料なのです。

奈良文化財研究所では、環境考古学研究室が中心となって、考古学的な視点から骨の調査研究をおこなっています。今回の展覧会では、東日本大震災の復興調査支援で分析している縄文時代の巨大マグロの骨や、奈良県内でみつかった骨にスポットを当てて、古代の人々と動物との関わりを紹介します。骨に隠された古代の歴史、そして、その歴史をあきらかにする研究の舞台裏をお楽しみください。

(飛鳥資料館 小沼 美結)



会 期：2019年4月23日(火)～6月30日(日)月曜休館

※4月29日(月・祝)～5月6日(月・振休)は開館、5月7日(火)は休館

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

イベント：「研究員を展示！」5月10日、5月17日いずれも(金)13：30～16：00

「体験！研究員のお仕事」6月9日(日)、6月21日(金)13：30～ ※要事前申込

ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/asuka/ お問い合わせ：☎0744-54-3561

平城宮跡資料館 特別企画展 「高御座」

平城宮跡資料館では、新天皇陛下即位を記念して、朝廷の重要な儀式の際に天皇が着座する玉座・高御座にスポットを当てた特別展を開催します。

奈良文化財研究所では、2010年の平城宮第一次大極殿の復原・公開に先立ち、大極殿の内部空間に関する検討をおこないました。その中で、大極殿内部の中央に置かれる高御座についても、10分の1模型での検討・製作をおこなっています。模型の設計は、1915年(大正4年)の大正天皇の即位に際して新調された高御座をベースに、文献資料から復元できる点は復元し、後世の意匠については正倉院宝物や法隆寺献納宝物を参考に修正しました。

本年10月の即位礼正殿の儀では、1909年に製作された現在の高御座が使用されます。本展を通じて、奈良時代の高御座の検討過程をご紹介しますとともに、連綿と続く歴史の息づかいをお伝えできれば幸いです。(企画調整部 座覇 えみ)



10分の1高御座模型

会 期：2019年4月27日(土)～6月2日(日)月曜休館

※4月29日(月・祝)～5月6日(月・振休)は開館、5月7日(火)は休館

開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)

ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/heiho/museum/ お問い合わせ：☎0742-30-6753(連携推進課)

■ お知らせ

藤原宮跡資料室 特集展示

2019年4月8日(月)～4月26日(金)

「埋もれた大宮びとの横顔—葉・まじない・庄園の木簡」

第17回 平城宮跡クリーン大会

4月6日(土) 朱雀門ひろば 9：30集合(申込不要)

※雨天の場合は4月13日(土)に実施します。

■ 記 録

文化財担当者研修(専門研修)

○史跡等保存活用課程

2019年1月15日～1月25日 21名

○出土文字資料調査課程

2019年2月18日～2月22日 10名

○保存科学Ⅳ(遺構・石造文化財)課程

2019年2月25日～3月1日 6名

飛鳥資料館 冬期企画展

1月25日(金)～3月17日(日) 3,117名

「飛鳥の考古学2018」

■ 最近の本

○第21回古代官衙・集落研究会報告書

『地方官衙政庁域の変遷と特質』

(株)クバプロ 2018年12月

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 https://www.nabunken.go.jp

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2019年3月